

「神の御心」

聖書箇所

マタイによる福音書 11章 16節— 19章

「16:今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。17:『笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、／悲しんでくれなかった。』18:ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、19:人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」

ただ今お読みいただいたイエス様のお言葉の少し前の 11章 2節以下 6節までに次のようになります。

「11:2 ヨハネは牢の中で、キリストのなさったことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、11:3 尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」11:4 イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。11:5 目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。11:6 わたしにつまずかない人は幸いである。」

イエス様は「私に躓かないものは幸いである」と仰っていました。この言葉を聴くと、私たちは、自分たちの傲慢さこそイエス様に躓く元であることを確認せざるを得ません。

さて、それでは、本日の箇所についてお話いたします。まず、16節冒頭の言葉を考えてみたいと思います。イエス様は「：今の時代を何にたとえたらよいか」と仰います。「今の時代」とは何を指すのでしょうか。まずは、イエス様当時の世の中の人々を指すとして、お話を進めます。そうすると、当時の世の中の人々はリクエストをする人々です。その人々は、丁度、広場で遊んでいる子どものようにヨハネやイエス様にリクエストする人々でした。ヨハネには笛を吹きながら「一緒に踊ろう」と呼びかけます。朗らかにやろう、というわけです。ヨハネは厳格な生き方をしていましたから彼らのリクエストには応じません。すると彼らは「笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった」という具合に文句を言うのです。次に彼らは、イエス様が来られて徴税人や罪人らと楽しく飲食を共にしておられると、「葬式の歌をうたったのに、／悲しんでくれなかった」と、これまた文句を言うのです。17節、18節にある通りです。どうせえと言うんでしょうか。先週学んだ箇所でイエス・キリストは「私に躓かないものは幸いである」と仰っていましたが、ここにヨハネやイエス様に躓きまくっている当時の世の中の人々の姿があります。

以上のように解釈しても、確かに筋は通ります。このような人々は、まさにヨハネやイエス・キリストに躓きます。なかなか、イエス・キリストを正しく理解しようとしません。なんだかんだと難癖をつけるのです。

しかしこれから今しがたとは全く反対の読み方をしてみたいと思います。すなわち、広場で遊んでいる子どものように呼びかけたのは、ヨハネやイエス様、そしてその教えを述べ伝えているイエス様の弟子たち、またひいてはこの場の私たちクリスチャンであるとして、話を進めてみます。いや、これを本日の本題としたいのです。イエス様も私たちも、当時の世の人々や、また現代の世の人々に呼びかけているのです。しかし世の人々は、その言葉を正しく受けとめることなく、「あれは悪霊に取りつかれている」と言い、「見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ」などと言うのです。喜ばしい福音の言葉を素直に聞こうとはしないのです。即ち、イエス・キリストは笛を吹いてくださったのに、世の中の人々は、そう簡単に踊りません。日本のクリスチャン人口もなかなか増えません。増えるどころか、横ばいすら危ない状況です。ここに至って、クリスチャンは焦ります。その焦るクリスチャンの最たる者の一人であろうと思われる私は、しかし、本日の箇所を読んで、焦るどころか、深く反省させられる言葉がありました。

それはほかでもない、17節の言葉です。曰く、

「笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。」

私の伝道の意識は、まさに笛を吹いて人を踊らそうという意識です。ここに大問題があるでしょう。ことは伝道に限らないでしょう。この世の中で何かをしようとするとき、人を躍らせようなどという不埒なやからは、実りを得ることは出来ないでしょう。そして、伝道において、そのことは最も如実でしょう。イエス様の福音という笛を吹いて、世の中人々が踊ってくれないからといってヒステリックになる前に、その踊らせようという自分の姿勢そのものを激しく問う必要があるでしょう。

福音を語るとはどういうことでしょうか。イエス・キリストを宣べ伝えるとは、どういうことでしょうか。人をクリスチャンにして、教会の勢力を伸ばすことでしょうか。クリスチャンにするまでいかなくても、教会に人々が来て、教会をにぎやかにすることでしょうか。そして、その笛吹きが成功した暁には、心から満足して大いなる感謝の祈りを神様に捧げるのでしょうか。それは、正に、笛を吹いて人を躍らせることができたことに対する、自己満足の祈りです。

反対から考えてみましょう。信仰生活とは、笛を吹かれて踊らされる生活のことでしょうか。そういうことでもないでしょう。信仰生活とはイエス・キリストに出会うことによって、自分でも気が付いていなかった自分自身の無限の宝に時々刻々気づかされ、喜びの内に生きる日々のことでしょう。その意味で、信仰生活とは、人を踊らせたり、人に踊らされる生活のことではなく、イエス・キリストと出会い続ける生活のことでしょう。

私たちは、色々と手を尽くして、教会に人を招こうと致します。この世の人々の喜びそうなことをして、もっと人々をひきつけねば、などと思います。そのとき、人々を枯れ木も山の賑わいの枯れ木にしていらないかどうか、反省すべきでしょう。ともすれば、その一人一人のことを思わず、教会の勢力の一部に数えたりしてしまいがちです。教会の勢力が保たれることが、まず第一に大切なことになりがちです。

この日曜日の10時半からの礼拝にたくさんの人々が出席されることは、それは実にありがたいことであり、心から喜ばしいことです。しかし、その一人一人が、この礼拝の直中で、ご自分自身のかかけがえのない豊かさに今更のように気付かされて、生きる力が心の底からみなぎってくることこそ、最も重要なことです。そのためには「人を躍らせ」ようとするような不埒な考えを神様に取り除いていただくしかありません。私たちは、私たちの関わる全ての方々が、その方々お一人お一人の中にある限りなく豊かな宝に気付かれ、それを十二分に生かした日々を生きられるように祈りましょう。即ち、人々の幸せのみを祈りましょう。一人一人の幸せこそが、「神の御心」であるに違いありません。

<祈り>神様、私たちをして、人を踊らせようとする誘惑から救い出してください。あなたの御心だけを、私たちにおいてならせてください。この祈り、主イエス・キリストの御名によって御前にお捧げいたします。アーメン。